



発行: 日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人: 山口一樹 編集人: 河村正之
住所: 〒680-0847 鳥取市天神町30-5
TEL (0857) 26-6605 FAX (0857) 26-6615
E-mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp
ホームページ: https://jtuc-tottori.jp

「働くことを軸とする安心社会の実現」をめざして — 2026年度政策・制度要求を鳥取労働局へ実施 —



山下労働局長に要請書を手交する山口会長(右)

<持続可能で健全な経済の発展>

1. 取引の適正化の実現に向けて

<雇用の安定と公正労働条件の確保>

2. 労働行政の強化
3. 働く者のための働き方改革に向けた監督体制の強化
4. 良質な雇用・就業機会の実現に向けた対応
5. 外国人労働者が安心して働くことのできる環境の整備
6. 地域における高齢者の就労促進
7. 真にセーフティネット機能を果たすことができる法定最低賃金制度の確立

<社会インフラの整備・促進>

8. 持続可能で安心・安全な社会資本整備の推進

<男女平等政策>

9. あらゆるハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現
10. 男女が仕事と生活を調和できる環境整備の推進

毎年、鳥取労働局に対して行っている「政策・制度要求」を、今年も10月17日(金)に、山口一樹会長他7人が鳥取労働局に赴き、地域労働者の労働・雇用環境の改善など4分野17項目にわたる要請書を山下禎博鳥取労働局長に手交し、各担当部長も交えて率直な意見交換を行いました。労働局側から「要請は働く現場の実態を踏まえた貴重な生の声なので今後の政策立案に活かしていきたい。国政が動いている最中であるが労働環境改善の必要性は変わらない」との発言もあり、引き続き連合鳥取と連携していくことを確認しました。

はたらくのそばで
ともに歩む

11月は過労死等防止啓発月間

実現しよう!

過労死等



連合



連合特設ページ
過労死等防止

休み方見直しの3つのポイント

「こころ」と「からだ」のバランスを整えるためには、
豊かな生活時間の確保が重要です!

① 十分な休息時間

十分な睡眠時間と生活時間を確保しましょう。最低6時間以上の睡眠を取り、仕事から解放された生活時間の確保が大切です。

② 定期的な休日

長期の連続勤務は健康リスクを増大させます。「毎週最低1回の休日」を原則に、定期的な休日を確保することで疲労の蓄積を防ぎましょう。

③ 積極的な年休取得

年休奨励日の設定や時間単位・半日単位での取得など、企業と労働組合は取得を促すため制度・環境整備に取り組みましょう。また労働者も積極的・計画的に休暇を取得しましょう。

「暮らしを守る・未来を創る」ために —第13回鳥取県労働・福祉事業四団体合同研修会を開催—

連合鳥取・鳥取県労働者福祉協議会・中国労働金庫北部エリア営業本部・こくみん共済coop鳥取推進本部は、県内の労働者・勤労者の福祉の向上に向けて日々連携を図るため、「鳥取県労働・福祉事業四団体運営協議会」を組織し、「助け合い」「支え合う」、共生社会の実現をめざして活動を行っています。

10月18日(土)、13回目を迎える「鳥取県労働・福祉事業四団体合同研修会」をハワイアロハホール(湯梨浜町)にて開催し学習を深めました。

講演

「人生100年時代に備えた保障と資産形成のお話」

講師：(株)F PユニオンLabo 吉上 美枝子 さん

(CFP 認定者、1 級FP技能士)



《講演内容より抜粋》

- ・物価上昇に伴って、これまでと同じ生活をしていても家計の負担が増えている。老後の備えや資産形成など未来に対する不安要素はたくさんあるが、様々なライフイベントに必要な金額をあらかじめ知っておくだけでも先が見通しやすくなる。
- ・教育費は子ども一人当たり1,000万円を超えている。高校までの負担感は減っているが、習い事の費用や日用品、下宿させる場合の家賃など上昇している項目があるので要注意。
- ・住宅費も上昇している。取得にかかる購入費用に注目しがちだが、固定資産税や火災・地震保険、リフォーム代などのランニングコストはローンを支払い終えても続いていくことに要注意。
- ・買い物のリボ払いや分割払い、また、自動車の購入時の残価設定ローンにも注意が必要。ろうきんのローンを活用した方がはるかに支払総額を安く抑えることができる。まずは組合を通じて相談されることをお勧めする。
- ・老後の備えについて一時「2,000万円問題」と話題になった。現在は単身で約1,000万円、夫婦で約1,200万円が不足するとみられている。生命保険の医療給付や死亡保障と満期などを効果的に組み込むことで、将来の健康不安の保障と資産形成を同時に備えられるメリットがあるので検討してほしい。
- ・資産形成の方法は3つ。①収入を増やす、②支出を減らす、③お金に働いてもらう。①も②も簡単ではない。いま有効な手段として、③のiDeCoやNISAが流行っているが、どの金融機関を利用するかで違いが出てくる。商品の種類や内容、手数料、サポート体制なども検討いただきたい。特に金融知識や経験が少ない人ほど相談しながら運用できることが大切である。

みなさんの近くには、営利を目的としない「ろうきん」「共済」という有効な窓口があります。気軽な相談相手としてぜひ活用してください。



西部地協発

2026年度政策・制度要求を米子市・境港市へ実施

西部地域協議会は毎年、地協内産別からの要求事項をとりまとめ、米子市長と境港市長に対し政策・制度要求を行っています。

本年度は10月14日(火)に境港市へ、また10月24日(金)には米子市へ提出しました。

今後予定されている意見交換がより実りある場となるよう、要求事項の背景や趣旨についての理解を深めていただくことを目的に、米子市の佐々木俊二総合政策部長、境港市の黒崎 享産業部長へ事前説明を行いました。

今後は年明けの1月には、要求項目について各担当部・課等と意見交換を進め、「働くことを軸とする安心社会の実現をめざし、労働者・住民にとってより良い社会を実現する」ために取り組みを進めていきます。



境港市



米子市

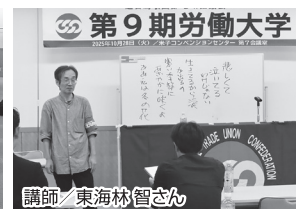
西部地協発

第9期労働大学 開校!

西部地域協議会は、10月28日(火)、米子コンベンションセンターにて「第9期労働大学」を64人参加の中で開催しました。

講師には毎日新聞社会部記者の東海林 智(とうかいりん さとし)さんを迎え、「地域で求められる労働運動 ～分断の時代に社会的連帯を考える～」の演題で行っていただきました。労組の社会的役割を理解し、市民社会と関わり、社会運動のアンカーとして期待される労働組合になってほしいとエールをいただきました。

また、「ルポ・低賃金(地平社)」の著者であり、取材秘話(?)も聞かせていただきました。用意した20冊「なぜ、この国では、普通に働いても普通に暮らせないのか?低賃金ニッポンの実態」の帯紙を纏ったルポのこの本は閉校時に完売となりました。



講師 東海林智さん

倉吉市・北栄町議会議員選挙 結果

9月28日(日)告示の倉吉市議会議員選挙と、9月30日(火)告示の北栄町議会議員選挙は、ともに届け出が定数内であったため、連合鳥取推薦の福井康夫さんと蓑原美百合さんが無投票で再選を果たしました。

連合鳥取推薦候補者のためご尽力いただきましたみなさんに心より感謝申し上げます。

当選 倉吉市 福井 康夫 (推薦依頼組織／立憲民主党)

当選 北栄町 蓑原 美百合 (推薦依頼組織／立憲民主党)



長年、お疲れ様でした

2009年より連合鳥取推薦議員として活躍された 津川俊仁北栄町議会議員が、10月22日の任期満了を迎え勇退されました。大変お世話になりました。



津川俊仁さん

東部地協発

「労組対象研修会」に53人参加

東部地域協議会は10月24日(金)、「労組対象研修会」をさざんか会館(鳥取市)で開催しました。

東部地協では、鳥取市人権教育協議会社会教育部会の取り組みとして毎年テーマを変えながら人権問題について学習しています。今回、講師に連合鳥取結成時の副事務局長、のちに鳥取県議会議員で活躍された 福岡裕隆 さんを講師として招き、「労働組合がなぜ部落差別問題に取り組むのか」というテーマでご講演いただきました。「部落解放鳥取県共闘会議」結成時からの歴史やあゆみなどについて大変貴重なお話を聞くことができました。

人権問題には「障がい者差別・女性差別・ジェンダー差別」など様々な問題があります。それぞれの人権にはそれぞれの問題があり、あらゆる差別の撤廃・人権尊重社会の実現に向けて何が重要かを学ぶことができました。

*部落解放鳥取県共闘会議は1976年、労働者が部落解放の闘いを自らの課題としてとらえ、旧労働三団体が主体となって結成された。1990年の「連合鳥取」結成に伴って発展的に解散し、1991年5月8日、部落解放同盟鳥取県連合会と、趣旨に賛同する産別、単組(労働組合)が新たに部落解放鳥取県共闘会議を発足させ、福岡さんは再結成時の初代事務局長を担われた。その後、連合鳥取が組織内でさまざまな議論を行い、1999年11月26日に開催された「連合鳥取第8回定期大会」において、「部落解放鳥取県共闘会議」への一括加盟を決定し、人権確立に向けた活動を行っている。



鳥取退職者連合発

「第33回定期総会」&「全県学習会」を開催

鳥取退職者連合は10月1日(水)、国民宿舎水明荘(湯梨浜町)に42人(代議員26人・傍聴1人・執行部13人・連合鳥取2人)が集い、「第33回定期総会」を開催しました。

入江賢治代議員(JR西労組)を議長に選出し、山田敏明会長があいさつを行い、続いて6人の来賓のみなさんから激励のあいさつをいただきました。その後、立憲民主党鳥取県総支部連合会と国民民主党鳥取県総支部連合会からメッセージが披露されました。また、倉吉市議選で当選された福井康夫さん、北栄町議会選挙で当選された蓑原美百合さんが支援のお礼に駆けつけてくださいました。

議事では、2025年度経過報告、会計決算報告、会計監査報告に続いて、2026年度活動方針案、予算案の提案と、伊藤源蔵役員選考委員長より次期役員(役員交替)の提案がなされ、質疑では、JP労組退職者の会の2人の代議員から「訪問介護・生活支援報酬の引き下げによる課題」と「グランウンド・ゴルフ大会」の運営、そして「組織拡大の課題を議論していく必要性」について意見と要望が出されました。「意見・要望については幹事会で議論していくこととする」との回答で質疑討論を終え、すべての提出議案が満場一致の拍手により承認されました。

総会終了後、「全県学習会」を開催しました。日本退職者連合常任幹事の川端邦彦さんを講師に、「大砲NO! バターYES! 社会保障制度を育て守るために」と題して講演いただきました。「社会保障制度議論は道半ば。政治経済の動向を注視しながら、高齢者が安心して暮らせる社会保障制度を求めていく必要がある」と訴えられました。

(寄稿 鳥取退職者連合事務局長 西村 一秋さん)



あいさつする山田敏明会長



定期総会の様子



学習会の様子



湯原 俊二

— 緑肥の想い —

高市政権の政治を 注視しましょう。

自民党および自民党議員は、一年間に企業団体献金を80億円受け取っています。そのため国民全体の利益より多額の献金をくれる企業団体の利益を優先する政治になり、政治をゆがめています。この度、政治資金問題で、公明党が自民党との連立政権から離脱しました。私は評価します。

日本維新の会が自民党と連立政権を組みました。吉村代表は、議員定数削減が政治改革のセンターピンだといっています。しかし30年前の政治改革で、自民党は企業団体献金問題を棚上げして選挙制度改革を主張し、国民の目先を変え、金づるの企業団体献金はまもり続けてきました。今回の議員定数削減も同じ轍を踏まないか懸念します。高市新政権の屋台骨は旧安倍派です。十数年間のアベノミクスによって貧富の格差は拡大し、東京一極集中は加速し、円安誘導により原材料高、物価高になりました。アベノミクスから脱却できるのか疑問です。日本維新の会は、規制緩和を声高にしています。国民の暮らしへの影響を注視しなければなりません。

湯原さんのホームページ・
Facebookもご覧ください

湯原 俊二

検索

二次元コードからも
つながります▶



鳥取退職者連合「第33回定期総会」
(2025.10.1)



朝夕寒くなってきた中も辻立ちで
訴えています(2025.10.2)



第18回全日本チャレンジドアクアスロン
皆生大会に今年もボランティアで参加
(2025.10.13)

“ザ・議員”

ながさか のりおう
長坂 則翁

鳥取市議会議員

昨年度に引き続き、「令和7年度鳥取市こども未来会議」が8月5日(火)、鳥取市役所の市議会議場等で開催され、私も副議長の立場で参加しました。

今年度は、鳥取市の南ブロックの小学6年生を対象に32人とその保護者が参加をし、①学校での生活について、②子育てについて、③防災について、④まちづくりについて、をテーマにそれぞれグループワーキングをしました。そして、市長への提案として各グループ代表が意見表明(含.提案)を行い、それに対して市長が答弁し、有意義なこども未来会議を終了しました。

こども未来会議は、主権者教育の一環として、鳥取市の将来を担うこども達が自ら考える鳥取市の姿について自由に意見や思いを市長へ提案してもらうことを目的に小学生を対象にしており、来年度も開催予定です。



後列中央の右寄りが長坂議員(議場に於て)

ながつか ひろのぶ
長束 博信

南部町議会議員

「ハラスメント」と「住民の声」

近年、個人が不快に感ずることはハラスメントとして取り上げられることが増えています。

議会改革調査特別委員長に就任しましたので、この問題について私たち町議会も遅まきながら取り上げ、議会のハラスメント条例制定に向けて動き出しました。職員への不遜な態度、高圧的な話し方などがなく、議員を含めアンケートを実施し回収したところです。安心と信頼される議会をめざしてこれからまとめたいと考えています。

また、選挙が2回無投票となったことで、住民のみなさんが議会をどのように感じているのか「住民の声をきく会」を立上げ、これから議員が各班に分かれて全集落に出向く計画をスタートしました。



行政調査の様子(神奈川県開成町)右の白シャツが長束議員

先日、毎日新聞記者の東海林さんの講演を聴かせていただいた。演題が「地域で求められた労働運動」分断の時代に社会的連帯を考える」と少しお堅い題目▼その中で、「労働組合が自分の会社のことにしか関心がない、自らの待遇のことがばかり考えている集団」と思われるような見えない存在となってしまう。そして、エゴ集団などまでいわれてしまっている。いろいろな場に出かけていき、労働組合を知ってもらう努力が必要だと思われた。知らないことが、いろいろな誤解や妬みが生じることになる怖さを感じた▼また「労働組合は社会運動を支えるアンカーであるのに、最近はその役割を期待されなくなっている」とも話された。組合の社会的役割を理解して、一緒に行動できる仲間とともに外に出て行く、市民社会と関わっていくことの重要性を改めて気づかされた講演だった。最後に取材で出会った女性から紹介されたとする宮本浩次の「冬の花」の一節を紹介された。「ルポ・低賃金」という本の第1章 特殊詐欺の冬の花を読んだから聴いてみた。ぜひ、みなさんも一読後、聴かれることをお勧めします。

(W-surfer)



てんぐのうさぎ



再生紙を使用しています